

橋梁技術発表会及び講演会

メインテーマ

これからの鋼橋に求められる技術

13:00 ~ 13:10

開会の辞 社団法人日本橋梁建設協会 副会長・専務理事 **中島 威夫**

13:10 ~ 13:20

橋建協の講習会・講演会活動報告 企画委員会広報小委員会

第1部：技術発表会

13:20 ~ 14:05

1. 鋼橋の耐風性について

—道路橋耐風設計便覧の改訂のポイントと合理化橋梁の耐風安定性—
技術委員会設計小委員会

14:05 ~ 14:50

2. 保全工事における補修・補強設計の留意点

—補修工事事例から考えた補修・補強設計への提案—
保全委員会

14:50 ~ 15:35

3. 鋼・コンクリート合成床版の実橋調査

—枝川ランプ橋の非破壊検査と秋田大橋の健全度調査—
技術委員会床版小委員会

15:35 ~ 15:50

休憩

第2部：特別講演会

15:50 ~ 16:50

橋梁建設の産業的課題と技術者

日本大学生産工学部土木工学科 教授 **五十畑 弘**



五十畑 弘 教授

16:50 ~ 16:55

閉会の辞

橋梁技術発表会実行委員会

<http://www.jasbc.or.jp/>

参加費無料
定員 **200** 名
申込先着順

日 時 / 平成20年11月7日(金) 13:00 ~ 16:55
 会 場 / 仙台国際センター 2F 萩
 〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地
 Tel. 022-265-2211

申 込 方 法 / ①Eメール(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
 の「技術発表会申し込み受け」まで(受付は9月下旬から)
 ②Fax (指定の用紙に記載) Fax. 022-262-4855

申 込 期 限 / 平成20年10月24日(金)

懇 親 会 / 仙台国際センター1階「ラ・フォーレ」にて17時10分から開催します。
 会費 1,000円
 参加ご希望の方は、発表会当日受付にてお申し込みください。

主催・連絡先 / 社団法人 日本橋梁建設協会東北事務所
 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1 仙台グリーンプレイス
 Tel: 022-262-4855
 ※CPDS認定予定(継続学習制度)

※東京地区は10月15日(水)(特別講演講師:名古屋大学 山田教授)
 大阪地区は10月23日(木)(特別講演講師:関西大学 白石教授、大阪工業大学 松井教授)
 九州地区は11月18日(火)(特別講演講師:九州工業大学 山口教授)開催です。
 申し込み等詳細はホームページでご確認願います。



●仙台駅西口バスプール9番乗り場より「仙台国際センター」行き、「博物館国際センター前」下車(バス移動約10分、徒歩約1分)
 710「宮教大・青葉台」、713「宮教大・成田山」、715「宮教大」、719「動物公園循環(青葉通・工学部経由)」、720「交通公園・川内営業所」
 のいずれかにお乗りください。

東北地区 橋梁技術発表会概要

1. 鋼橋の耐風性について

—道路橋耐風設計便覧の改訂のポイントと合理化橋梁の耐風安定性—

合理化橋梁（少数主桁橋や細幅箱桁橋）はゴム支承の採用や横構等部材の省略により、従来形式にくらべて構造減衰・ねじれ振動数が小さくなっており、長支間（60 mを超える）の場合の耐風安定性が課題のひとつでした。設計小委員会では、合理化橋梁について二次元模型風洞試験による耐風性の評価や起振機を用いた振動試験による振動特性の検討を実施し、成果の一部は、16年ぶりに改訂された道路橋耐風設計便覧に反映されています。ここでは、道路橋耐風設計便覧の改訂のポイントとこれまで委員会で検討してきた合理化橋梁の耐風安定性について報告します。

2. 保全工事における補修・補強設計の留意点

—補修工事事例から考えた補修・補強設計への提案—

橋梁保全工事は狭隘な箇所での施工や既設構造物などが障害となるため、施工性の悪い中での作業となることが多くあります。補修・補強設計は、このような施工性を考慮して進めていく必要があり、施工性が考慮されなかったために施工不可能となり、結果的に変更設計を行うことになる事例もあります。本報告は、このような保全工事の特殊性をふまえた設計の手順を提案するとともに、最近の工事施工事例を集め、施工性の面から設計面へフィードバックできる現場の情報もまとめてみました。

3. 鋼・コンクリート合成床版の実橋調査

—枝川ランプ橋の非破壊検査と秋田大橋の健全度調査—

実橋で使用されている合成床版の健全度を把握する目的で実施した点検・調査の結果を報告します。対象橋梁は2つで、はじめに供用後27年経過した首都高速道路枝川ランプ橋で各種非破壊検査および目視点検を実施した結果を紹介し、次に、秋田大橋が平成16年3月に撤去解体された際に、23年間供用された合成床版から切り出した供試体を用いて行った各種の破壊試験の結果について紹介します。

東北地区 特別講演会 講演者の紹介

五十畑 弘（日本大学生産工学部土木工学科 教授）

—略歴—

1947年 東京都生まれ
1971年 日本大学生産工学部土木工学科卒業
1971年 日本鋼管株式会社勤務
1980年 鋼構造部技術室係長
1985年～1987年 日本鋼管ロンドン事務所エンジニアリング部門マネージャー
1991年 長大橋プロジェクト営業室長
1996年 橋梁営業部部長兼海外営業部
2001年 鋼構造部本部長
2003年 JFEエンジニアリング主席 兼羽田空港プロジェクト準備チームマネージャー
2004年 日本大学生産工学部教授

学外委員等

土木学会図書館委員会委員長、土木学会鋼構造委員会継続教育推進小委員会委員長、土木学会土木史研究委員会副委員長、土木学会歴史的土木構造物保全技術連合小委員会委員長、土木学会教育プログラム審査委員会委員、国土交通省千葉国道事務所総合評価審査分科会委員、文化庁近代化遺産の修理等に係る指針策定に関する調査研究会委員

講演テーマ

「橋梁建設の産業的課題と技術者」

講演概要

公共事業費の削減、インフラストック増加にともなう老朽橋の維持保全など橋梁に関する課題は山積している。橋梁建設の産業的課題と技術者の関わりについて、課題の捉え方、発生の経緯を述べつつ、今後の取り組みを考える上で、建設産業の歴史側面や、海外橋梁建設との比較などより広範な視点の必要性について述べる。

きりとり線

Fax番号 022-262-4855

平成20年度

橋梁技術発表会
〔東北地区〕

参加申込書

所 属	団体名	所属
氏 名	役職	氏名
郵便番号	□□□-□□□□	
住 所	_____	
電話番号	()	FAX番号 ()
メールアドレス	_____	
前回参加の有無	有	無